

大船渡発

「復興ドラマ」上映会 始まる

復興の歩みをつづったドラマの岩手県内上映会がメインロケ地の大船渡市を皮切りに始まりました。



上映されたのは手作り絵本で震災の記憶を語り継ごうと決めた大船渡市三陸町に住む家族の物語「日本一ちい

さな本屋」と東京から被災地に来た若い女性の不思議な体験を描いた「冬のホタル」の2本です。県が制作したこのドラマ、上映後は岩手ゆかりの監督や出演者による舞台挨拶も行われました。(3/4 ニュース)

陸前高田発

津波復興祈念公園 起工式

復興の象徴で追悼と祈りの施設となる「高田松原津波復興祈念公園」の起工式が陸前高田市で行われました。被災3県にそれぞれ整備される公園の中で最初の着工です。

公園は震災犠牲者への追悼と鎮魂の場として広場が整備されるほか、道の駅や津波伝承施設、



運動公園が整備されます。全てが完成するのは4年後の2020年度末の予定です。(3/5 ニュース)

大船渡発

大津波の記録を歩いて知る

震災後に開館した大船渡津波伝承館が地域にある大津波の記録を見つめ直そうという催しを開きました。



東京の大学生など11人が参加して、大船渡市三陸町吉浜地区を歩いて見て回り、昭和8年の三陸津波で200mも動いた約3トンもの巨大な「津波石」には驚いた様子でした。津波伝承館では今後こうした取り組みを続けていくことにしています。

(3/5 ニュース)

平泉発

中尊寺に震災慰霊碑

震災で亡くなった人達の七回忌の法要に合わせて世界遺産・平泉の中尊寺に慰霊碑が建立され、滋賀県にある天台宗総本山延暦寺の僧侶も参列して開眼法要が営まれました。慰霊碑は、平泉を訪れた参拝客に震災犠牲者に思いを寄せてもらおうと中尊寺本堂の隣に建てられました。碑は高さ1m90cm、重さはおよそ2トンで、宮城県川崎町から運んだ「蔵王石」という銘柄の石材が使われています。(3/6 ニュースエコー)



盛岡発

追悼の灯籠づくり

震災の発生から6年になるのにあわせて盛岡スコレ高校の2年生およそ100人がそれぞれ持ち寄った牛乳パックを切って追悼行事で使う小さな灯籠を作りました。灯籠はデザインに決まりはなく



花や星などの模様を切り抜いたものや復興への思いを書き込んだものなど様々です。生徒たちは小学生だった6年前のことを思い出しながら一生懸命作業していました。灯籠は毎月11日に盛岡の中心部で開かれる「祈りの灯火」という追悼行事で使われます。(3/7 ニュース)

宮古発

さんりく元気ラジオ!

(ワイドステーション内 毎週水曜日放送)

みやこハーバーラジオの久保田祥子さんが、「通いの場」について伝えてくれました。高齢者が身近な場所に集まり、体操やレクリエーションなどの活動を定期的に行う場の事です。活動の多くは住民の自主運営で行われていて、宮古市には約120か所あり、お茶を飲みながらおしゃべりをする会、体操、手芸をする会など活動は様々です。利用者にとっては、それぞれの活動を通して心身の変化や人とのつながりが生まれ、さらに色々なアイデアやニーズが出てくるので、介護予防だけではなく地域づくりにもつながっているという事です。(3/1)



「IBC復興支援室だより」facebookでも発信中
詳細はIB公式サイトから <http://www.ibc.co.jp/>
IBC復興支援室事務局 019-623-3122